

中山間地域の特色を活かした雲南市山椒産地化への取り組み

1. 雲南市山椒産地づくり協議会

【設立】 R2年7月設立
 【協議会員】 7経営体(R6.3 現在)
 【総面積】 5.7ha

種類ごとの収穫時期

山椒の種類	面積	4月	5月	6月	7月
アサクラ山椒	4.5ha			■	
ブドウ山椒	1.1ha				■
花山椒	0.1ha	■			

2. 取組の経過及び概要

(1)山椒に取り組むモデル経営体の育成

雲南市で山椒の栽培・加工に取り組む業者はあったものの、需要に応えられていない状況。このため、産地創生事業を活用し、優良系統苗木や自走式草刈機の導入、先進事例調査等を実施しながら、山椒のモデル経営体を育成中。



優良系統苗木

(2)安定生産・省力化栽培技術の実証

山椒栽培に関する知見がほとんどないため、農業技術センターと連携して、**安定生産・省力化栽培技術を実証**することで山椒栽培の手引きを作成。



山椒栽培の手引き

(3)乾燥調製・出荷体系の整備

アサクラ山椒は、地元の加工業者へ生果で出荷。ブドウ山椒は、JALしまね雲南地区本部が乾燥を行い、県外の加工販売業者へ試験出荷を開始。



アサクラ山椒



ブドウ山椒(生果と乾燥果)



3. 取組の成果

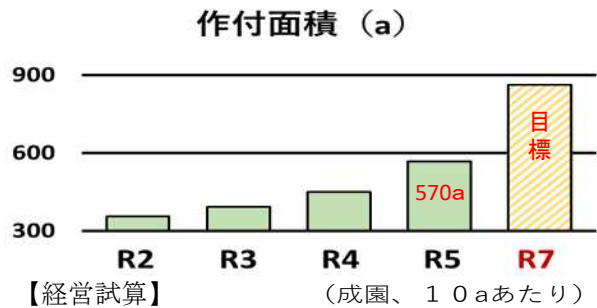
(1)集落営農組織の経営多角化品目として導入

作業時間は、収穫期に集中するものの、**水稲基幹作業と被らず、高い収益性も見込める**ため、集落営農組織の多角化品目として有望。また、収穫物が軽量で、高齢者・女性でも取り組みやすいため、経営の多角化を目指し、**新たに2組織が参入。8組織で栽培中。**

	R2	R3	R4	R5
新規栽培経営体数	4	2	3	3
うち集落営農組織	3	2	1	2

(2)作付面積が緩やかに拡大

集落営農組織を中心に新規植栽、規模拡大を働きかけ、**作付面積が徐々に拡大。**



	アサクラ山椒	ブドウ山椒※
出荷量 (kg)	500	150
労働時間 (h)	346	421
所得 (千円)	589	470

※乾燥出荷した場合

山椒は成園化するまでに8年程度要するが、成園時の経営試算では高収益を見込む。

代表者から一言

雲南市の山椒は、生産量がまだまだ少ない状況です。協議会で、栽培技術と情報を共有し、作付面積の拡大と生産性を向上させ、産地化を目指します。

若槻 雅人 いずも八山椒有限公司 代表取締役

4. 課題と今後の取組方向

- (1) 水稲+白ネギ+山椒を組合せたモデル法人の育成
- (2) 低樹高栽培技術の確立
- (3) 優良系統苗木の安定供給体制の仕組みづくり
- (4) 山椒栽培手引きのバージョンアップ